

十五日行程約十二里にして塔城即ち塔爾巴哈臺に入る。途上小川若くは濕地多きも、是れ現に解氷期なると、昨夜來小雪ありしとの爲めに、平日は坦々の好道路ならん。元來二道橋より、一直塔城に到る大道あるも、概ね濕地の故を以て、結氷期の外は、行人多く河上、官店を迂回するを常とせり。一般水草地には、哈薩克の氈幕點在し、盛に牛馬羊を放牧す。

五、塔爾巴哈臺

城の内外
塔爾巴哈臺は東經八十三度二分、北緯四十六度五十二分、省會(烏魯木齊を指す)に到る二百四十五里、北京を距ること實に一千五百七十九里に在り。滿漢の二城近く相接し、滿城はの周圍約二十町、城内には參贊大臣、索倫領隊大臣の衙門を置き、滿人の居住するもの僅に百數十戸、其の他空房壞屋多く、又漢城は周圍十數町、城内に塔爾巴哈臺直隸廳、協臺衙門ありて、人家約六百戸、其の北門外には、露國領事館、同電信局、露清銀行支店等存在し、居留露商約四百五十戸を有す。烏魯木齊、吐魯番方面に輸入の露貨は、其の大部皆此處を通過し、又附近山野に游牧する哈薩克の家畜と、日用諸品とを交易するもの多く、市場稍々繁盛せり。